第67期 中間報告書

2023年4月1日から2023年9月30日まで

扶桑化学工業株式会社

証券コード 4368

平素は格別のご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

代表取締役社長
杉田 真一

代表取締役会長
藤岡 実佐子

Q1 当上期の業績についてお聞かせください。

売上高は前年同期比23.3%減の、271億3千5百万円、純利益は同43.0%減の42億8千7百万円となり、売上高、利益ともに大幅な減収減益となりました。

昨年度は過去実績を大幅に上回る最高益の年になりましたが、今年度は一転、需要の減速、在庫の調整、競合の巻き返しなどで苦戦を強いられ、近年にない非常に厳しい結果となりました。

Q2 半導体業界のマイナス成長が続いておりますが、当社業績も、まだ影響を受けるのでしょうか?

半導体産業ではシリコンサイクルと呼ばれる経験則に導かれた景気循環があり、3～4年周期で好況と不況を繰り返しています。前回は2018年頃から減速がはじまり、おおよそ1年半で回復しておりましたが、今回はコロナ禍の特需の影響で顧客の在庫量がかなり多くなっていたためか、回復に想定以上の時間を要しており、当社も昨年度後半より大きな影響を受けております。

ただ、需要に見合った市場全体の在庫量の調整は進んできており、まもなく回復のきざしも見えるのではと期待しています。当社製品は消耗品ですので、いったんお客様での在庫調整が進めば、生産のために必要な注文量を頂ける様になると思います。

Q3 大幅な円安が進行していますが、当社業績にはどのような影響がありますか?

昨年度の実績ベースでは、1円円安になると売上高で2億円、利益で5千万円の年間でのメリットがありました。ただ、今年度に関しては、当初計画以上の円安傾向が続いていることで、海外からの仕入れ価格や原材料費、エネルギー費などが想定よりも高くなり、利益にはマイナスの影響となっています。また、両事業部門ともに、海外向け販売を中心に減速しており、円安に

よるメリットは小さくなっています。海外市場での販売物量維持のため、価格や需要の変化には迅速、かつ柔軟に対応しつつ、利益確保に努めています。

Q4 リンゴ酸の生産・販売状況についてお聞かせいただけますか?

リンゴ酸新工場が2020年度より鹿島事業所で本格稼働しています。これにより、大阪工場の10,000㌧の生産能力に15,000㌧が加わり、世界トップクラスの25,000㌧の製造が可能となりました。稼働当初は海外輸出が好調で、販売目標数量を数年前倒しで達成したものの、急拡大した反動と、海外競合メーカーからの巻き返しで、現在は少々苦戦しています。ただ、多くの有力な海外のお客様には引き続き購入いただいております。この結びつきを大切にしながら、物量の維持、拡大のための舵取りを行ってまいります。

Q5 コロナ禍がほぼ終息してなにか変化したことはありますか?

まず、出張・面談の機会が国内・海外で、急増しています。3年間我慢を強いられたせいかもしれませんが、久々に対面でお会いする、取引先や社員との対話は一段と弾みます。大勢で議論する機会も戻り、WEB会議では味わえなかった、臨場感や話のテンポもあり、有意義な時間です。

また、社員も出社する日は増えてはいますが、在宅勤務やフレックス制度などを上手く活用しています。

9月には本社を移転しました。同じミッションを持った仲間たちが、真剣に仕事に取り組みながらも、時には笑顔あり、コミュニケーションあり、活き活きと仕事に取り組んでいる姿をみて、移転して本当に良かったと感じています。

Q6 最後に、株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

9月に業績の修正を発表しています。半導体業界の市況回復の遅れを受けての下方修正となりました。ただ、市場を取り巻く環境だけを理由にするわけにはいきません。私どもは、この間にも、将来の為に今できること、具体的には効率化、省力化、更には利益を生むための先行投資となる設備投資・研究開発投資・人材投資を積極的に進めてまいります。

より強固な経営基盤を構築し、中長期での利益成長に向けた万全な下準備はできています。当第2四半期の当社グループの業績は、株主様に満足していただける結果とはいえませんでしたが、残りの期間で年度計画達成に向け尽力してまいります。

株主の皆様には、今後もより一層のご理解とご支援を賜りますよう、引き続きよろしくお願い申しあげます。

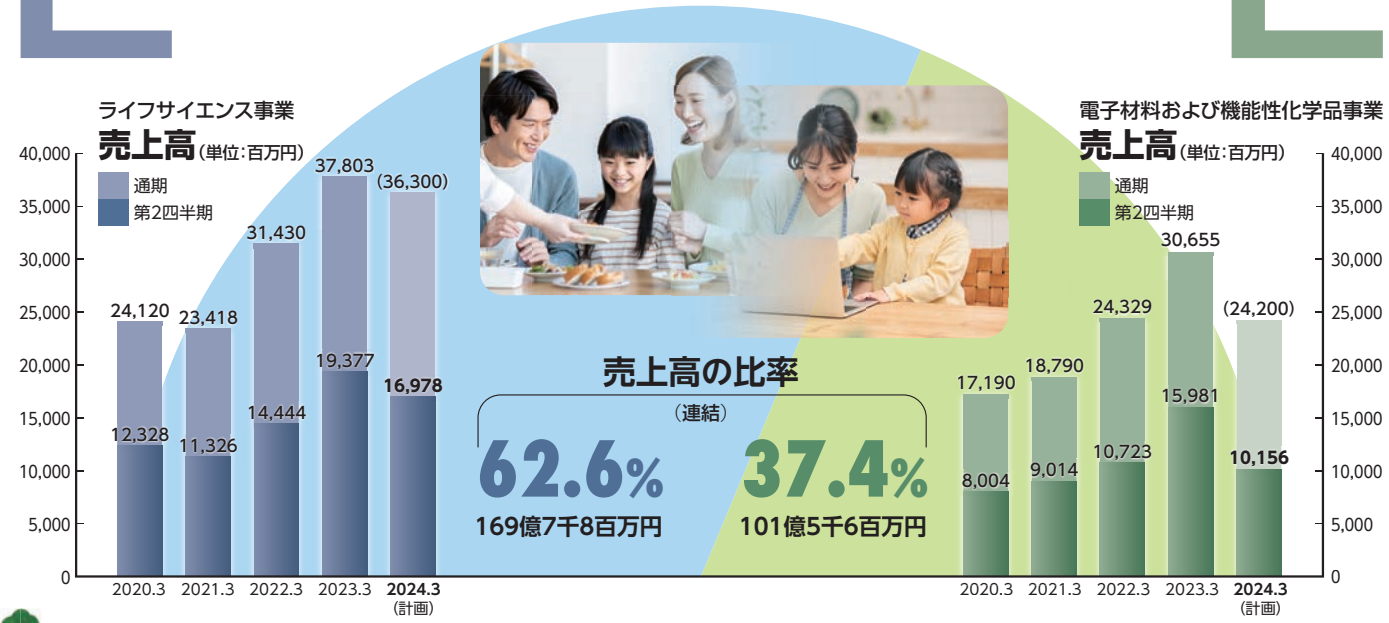
事業概況 ライフサイエンス事業 電子材料および機能性化学品事業

ライフサイエンス事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が169億7千8百万円（前年同期比12.4%減、23億9千9百万円減）、営業利益は32億7千6百万円（同2.1%減、7千1百万円減）となりました。

国内食品用途は底堅く推移しているものの、工業用途の需要落ち込みが想定より長期化しています。海外市場は、特に欧州経済の低迷の影響が顕在化し需要が大きく落ち込んで推移し、リンゴ酸の海外売上高が影響を受け減少しました。円安による売上高増加の効果はあるものの、コロナ禍の物流の混乱による世界的な在庫増加の反動の影響もあり、売上高は前四半期連結累計期間を下回りました。営業利益も継続して取り組んでいる販売価格の改定の効果はあるものの、新設備の稼働による減価償却費の増加、売上高減少の影響により、前四半期連結累計期間を下回り、減収減益となりました。

電子材料および機能性化学品事業全体の業績は、外部顧客に対する売上高が101億5千6百万円（前年同期比36.4%減、58億2千5百万円減）、営業利益は33億3千万円（同53.4%減、38億1千8百万円減）となりました。

半導体市場の低迷が想定より長期化しています。主力製品である超高純度コロイダルシリカの売上高は、コストアップ要因に対する販売価格改定や円安効果などの増加要因はありますが、低迷する半導体市場の影響を受け、前四半期連結累計期間を下回りました。在宅勤務の普及によるトナー需要減退の影響を受けていたナノパウダーの売上高は増加しましたが、セグメント全体の売上高は、前四半期連結累計期間を下回りました。営業利益も、円安の効果はあるものの、売上高の減少に加え、鹿島事業所の新設備の本稼働に伴う減価償却費や立ち上げに係る費用の増加、エネルギー価格の上昇、稼働率低下によるコストアップの影響もあり、前四半期連結累計期間を下回り減収減益となりました。



topics 1 本社移転

本社を日本生命淀屋橋ビルに移転し、9月19日より業務を開始しました。

新本社は全部署がワンフロアで勤務できるオープンな空間となります。部門を超えた、より活発なコミュニケーションを促し、アイディアやイノベーションの創出を目指したレイアウトです。

また、オフィスの一新に合わせて、ペーパーレス化を徹底するため文書管理システムを新たに導入し、業務の効率化も図っています。今後も従業員の生産性向上を目指すとともに、従業員が働きやすい快適な職場環境を整えることに注力してまいります。

topics 2 鹿島事業所Ⅱ期工事起工式

8月28日鹿島事業所にて、超高純度コロイダルシリカ製造設備のⅡ期建設工事を始めるにあたり、工事の安全と順調な完成を祈念して起工式を執り行いました。

4月には鹿島事業所内に超高純度コロイダルシリカの新しい製造設備が完成し（Ⅰ期工事）、順調に稼働が進んでいる中で、製品供給力をより一層高めるための追加設備投資となります。半導体市況の回復と継続的需要増を見据え、2025年7月の完成に向けて建設を進めてまいります。

▲2025年7月 Ⅰ期・Ⅱ期 完成予定図

topics 3 夏休み科学実験教室開催

8月下旬、株式会社オレンジページ協力の下、親子で楽しむ科学実験教室を開催しました。

参加者の方には、クイズや実験に実際に取り組んでもらいながら、身近な生活の中にあって、おいしさにも深く関わっている様々な酸味料（果実酸）の特徴や、酸味料を含む食品添加物の特性を知って頂きました。また、当社が提供する酸味料が食の安全を守るだけでなく、食生活を豊かにし、フードロスに貢献していることを知ってもらえる良い機会となりました。

連結財務諸表 要旨

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）	前連結会計年度末（2023年3月31日）
資産の部		
流動資産	**66,308**	**55,344**
現金及び預金	29,384	23,412
受取手形及び売掛金	14,838	14,968
商品及び製品	14,682	11,880
仕掛品	667	691
原材料及び貯蔵品	3,961	3,468
その他	2,773	922
固定資産	**61,350**	**58,184**
有形固定資産	**55,296**	**54,301**
建物及び構築物（純額）	15,652	9,418
機械装置及び運搬具（純額）	16,615	6,240
土地	6,928	6,913
建設仮勘定	15,130	30,938
その他（純額）	969	791
無形固定資産	**3,513**	**1,346**
投資その他の資産	**2,540**	**2,536**
投資有価証券	787	691
長期前払費用	303	366
繰延税金資産	1,044	1,173
その他	404	305
資産合計	**127,659**	**113,528**

科　目	当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）	前連結会計年度末（2023年3月31日）
負債の部		
流動負債	**13,669**	**23,908**
支払手形及び買掛金	3,291	3,294
未払金	1,815	1,983
設備関係未払金	5,570	13,775
未払法人税等	1,554	3,301
その他	1,438	1,552
固定負債	**22,171**	**2,117**
長期借入金	20,000	—
繰延税金負債	205	191
退職給付に係る負債	1,676	1,624
その他	289	301
負債合計	**35,840**	**26,026**
純資産の部		
株主資本	**87,356**	**84,225**
資本金	4,334	4,334
資本剰余金	4,820	4,820
利益剰余金	79,288	76,183
自己株式	△1,086	△1,112
その他の包括利益累計額	**4,462**	**3,276**
純資産合計	**91,818**	**87,502**
負債純資産合計	**127,659**	**113,528**

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結損益計算書

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期連結累計期間（2023年4月 1日から 2023年9月30日まで）	前第2四半期連結累計期間（2022年4月 1日から 2022年9月30日まで）
売上高	27,135	35,359
売上原価	16,814	21,066
売上総利益	10,320	14,292
販売費及び一般管理費	4,739	4,714
営業利益	5,581	9,578
営業外収益	738	1,184
営業外費用	73	5
経常利益	6,245	10,757
特別利益	13	84
特別損失	51	19
税金等調整前四半期純利益	6,207	10,822
法人税等	1,920	3,306
四半期純利益	4,287	7,516
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,287	7,516

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科　目	当第2四半期連結累計期間（2023年4月 1日から 2023年9月30日まで）	前第2四半期連結累計期間（2022年4月 1日から 2022年9月30日まで）
営業活動によるキャッシュ・フロー	119	5,289
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,054	△8,637
財務活動によるキャッシュ・フロー	18,831	△1,062
現金及び現金同等物に係る換算差額	781	1,219
現金及び現金同等物の増減額	4,678	△3,191
現金及び現金同等物の期首残高	22,350	23,460
現金及び現金同等物の四半期末残高	27,029	20,268

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

Point 1 （連結貸借対照表）

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ141億3千万円増加し、1,276億5千9百万円となりました。これは主に、現金及び預金、商品及び製品が増加したためです。

負債は、前連結会計年度末に比べ98億1千4百万円増加し、358億4千万円となりました。これは主に、設備関係未払金、未払法人税等が減少しましたが、長期借入金が増加したためです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ43億1千6百万円増加し、918億1千8百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加に加えて、円安により為替換算調整勘定が増加したためです。

Point 2 （連結損益計算書）

ライフサイエンス事業の国内食品用途向け販売は底堅く推移しているものの、工業向けやリンゴ酸の海外輸出が減少しました。 また、半導体市況の低迷が想定より長期化しており、超高純度コロイダルシリカの販売量が前年同期比で大きく落ち込みました。

エネルギー・資材コストの上昇、新規設備稼働に伴う減価償却費の増加、販売物量減の影響が大きく、効率化や価格改定を実施して利益確保に努めましたが、売上高・各利益は前年同期比で減収減益となりました。

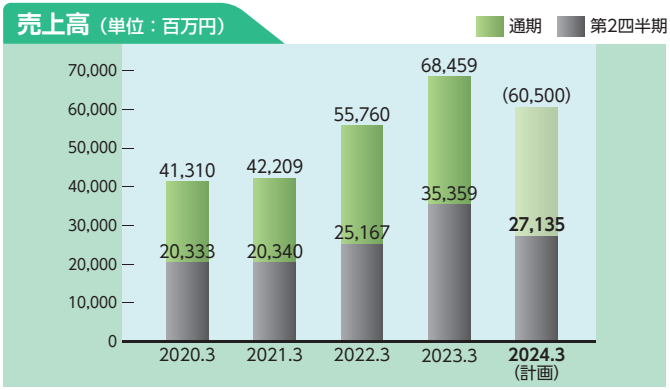
Point 3 （連結キャッシュ・フロー計算書）

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、借入の実行、税金等調整前四半期純利益および減価償却費の発生により取得した資金を、有形固定資産の取得、法人税等の支払、配当金の支払に充てた結果、前連結会計年度末に比べ46億7千8百万円増加し、270億2千9百万円となりました。

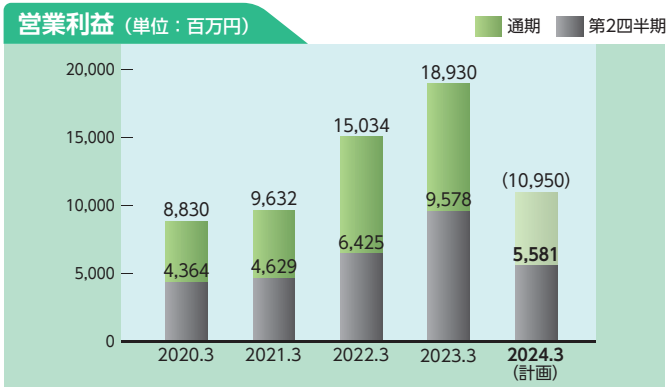
Financial Highlight

業績ハイライト 連結

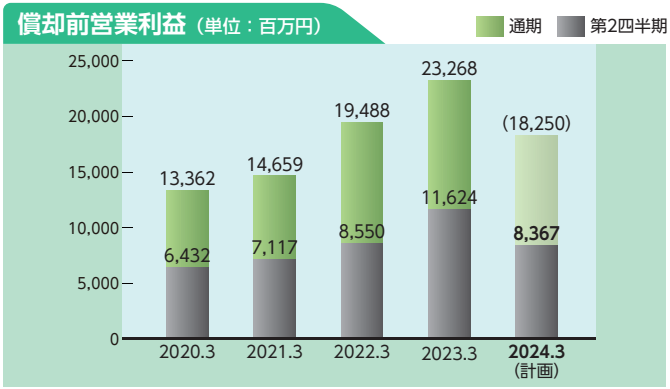
売上高（単位：百万円）



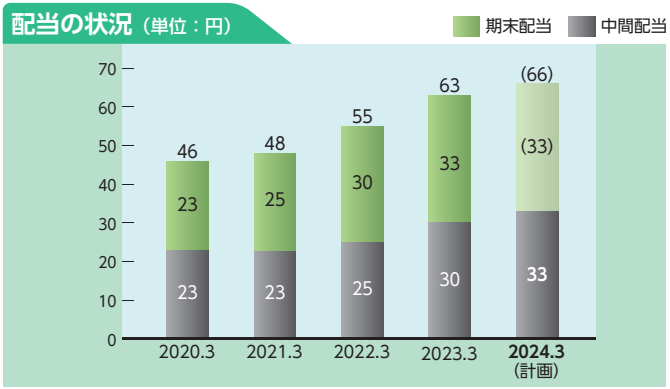
営業利益（単位：百万円）



償却前営業利益（単位：百万円）



配当の状況（単位：円）



第2四半期と通期における業績の推移

	2020年3月期		2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期	
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期（計画）
売上高（百万円）	20,333	41,310	20,340	42,209	25,167	55,760	35,359	68,459	**27,135**	60,500
営業利益（百万円）	4,364	8,830	4,629	9,632	6,425	15,034	9,578	18,930	**5,581**	10,950
経常利益（百万円）	4,403	8,954	4,505	9,746	6,482	15,509	10,757	19,740	**6,245**	11,550
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	3,013	7,014	3,086	6,808	4,488	10,890	7,516	14,129	**4,287**	7,900
償却前営業利益（百万円）	6,432	13,362	7,117	14,659	8,550	19,488	11,624	23,268	**8,367**	18,250
1株当たり当期純利益（円）	84.87	197.56	86.92	191.75	126.59	308.08	213.26	400.90	**121.64**	224.13

■株式の状況

（2023年9月30日現在）

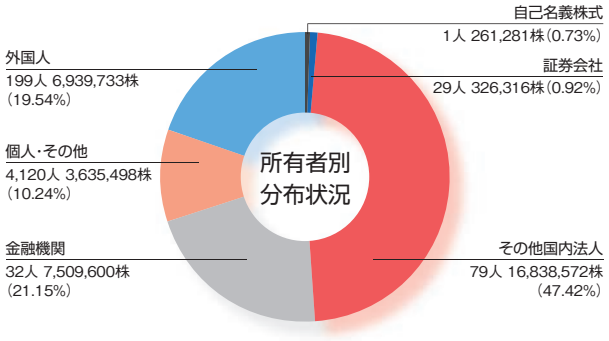
●発行可能株式総数：95,000,000 株

●発行済株式の総数：35,511,000 株
（自己株式が 261,281 株含まれています。）

●株主数　　：4,460 名

■株主の分布

（2023年9月30日現在）



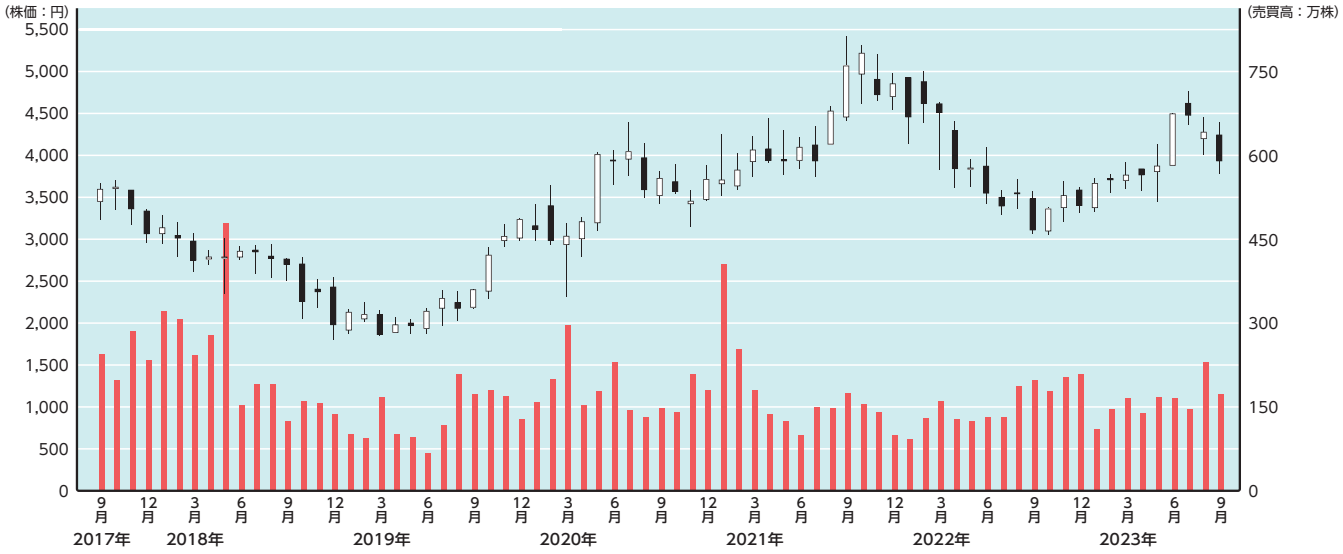
■大株主

（2023年9月30日現在）

株主名	持株数	持株比率
株式会社壽世堂	5,596,265	15.88%
帝國製薬株式会社	3,328,000	9.44%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3,073,100	8.72%
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	2,313,000	6.56%
株式会社薫風舎	2,085,900	5.92%
大阪中小企業投資育成株式会社	1,490,625	4.23%
有限会社帝産	1,375,000	3.90%
株式会社日本触媒	1,186,500	3.37%
公益財団法人赤澤記念財団	1,000,000	2.84%
THE BANK OF NEW YORK MELLON　140042	762,242	2.16%

・持株比率は、自己株式数を控除して計算しています。

■株価の推移



会社概要

会社概要

■商　　号	**扶桑化学工業株式会社**	
■創　　業	1952年(昭和27年)	
■設　　立	1957年6月24日(昭和32年)	
■資 本 金	43億3,404万7,500円	
■本　　社	〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜三丁目5番29号 (日本生命淀屋橋ビル 16階) TEL.(06)6203-4771(代)	
■東京本社	東京都中央区日本橋小舟町6番6号(小倉ビル7階)	
■事 業 所	**新大阪事業所**	大阪府大阪市淀川区新高二丁目6番6号
	京都事業所	
	京都第一工場	京都府福知山市長田野町一丁目5番地
	京都第二工場	京都府福知山市長田野町二丁目8番地
	鹿島事業所	茨城県神栖市東和田20番地
	神戸研究所	兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番16号 (神戸医療機器開発センター207)
	東京研究所	神奈川県川崎市高津区坂戸三丁目2番1号 (かながわサイエンスパークR&D棟 A206～A209)
	大阪工場	大阪府堺市西区築港新町三丁27番地10
	十三工場	大阪府大阪市淀川区野中北二丁目10番30号
■主要子会社	**青島扶桑精製加工有限公司**(中国) PMP Fermentation Products, Inc.(アメリカ) FUSO(THAILAND) CO., LTD.(タイ)	

役　員

(2023年9月30日現在)

■名誉会長および取締役

ファウンダー 名誉会長	**赤澤庄三**	
代表取締役会長	**藤岡実佐子**	
代表取締役社長	**杉田真一**	
専務取締役 (電子材料事業部長)	**政氏晴生**	
専務取締役 (国際事業部長)	**谷村隆史**	
取締役 (ライフサイエンス事業部長 兼 営業開発本部長 兼 営業企画部長)	**椙本源樹**	
取締役 (企画開発室長 兼 経営企画部長)	**藤岡篤**	
取締役	**百嶋計**	(社外・独立)
取締役 監査等委員	**木下善樹**	(社外・独立)
取締役 監査等委員	**平田文明**	(社外・独立)
取締役 監査等委員	**江黒早耶香**	(社外・独立)

■執行役員

上席執行役員 (管理本部長)	**伊藤裕之**
執行役員 (ライフサイエンス事業部 ライフ生産本部長 兼 鹿島事業所長)	**宮本典和**
執行役員 (電子材料事業部 電子材料本部長 兼 営業開発部長)	**山川恭弘**
執行役員 (電子材料事業部 電材生産本部長 兼 生産部長 兼 京都事業所長)	**田中寛之**
執行役員 (中国扶桑グループ総代表 兼 青島扶桑精製加工有限公司 総経理 兼 青島扶桑貿易有限公司 総経理 兼 扶桑化学(青島)有限公司 総経理)	**二宮主税**
執行役員 (管理本部 副本部長 兼 総務部長)	**三宅雅彦**

■事業年度	毎年4月1日から翌年3月末日まで
■定時株主総会	毎年6月開催
■基準日	定時株主総会　毎年3月31日 期末配当金　毎年3月31日 中間配当金　毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
■株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
■株主名簿管理人事務取扱場所	大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（郵便物送付先）	〒168-0063　東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	0120-782-031
（インターネットホームページURL）	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】
証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

【特別口座について】
株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます）を開設しています。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお願いいたします。

■公告の方法	電子公告とする〈https://fusokk.co.jp〉
■上場金融商品取引所	東証プライム

【利益配分に関する基本方針及び配当】
当社は、剰余金の処分につきましては、長期にわたり安定的に株主の皆様に報いるという基本方針のもと、企業体質の強化ならびに今後の事業展開を勘案して行うこととしております。内部留保金につきましては、将来の事業成長のための設備投資および研究開発に充当していきます。
当期の中間配当につきましては、1株につき33円となります。期末配当金は1株当たり33円の予定で、当期の年間配当金につきましては、1株につき66円を予定しています。

Information 「JPX日経インデックス400」構成銘柄選定

当社は、2023年度（2023年8月31日～2024年8月29日）の「JPX日経インデックス400」構成銘柄として選定されました。
「JPX日経インデックス400」は株式会社JPX総研及び、株式会社日本経済新聞社が共同で算出を行っている株価指数で、資本の効率的活用や投資者を意識した経営観点など、グローバルな投資基準に求められる諸要件を満たした、「投資者にとって投資魅力の高い会社」で構成されています。
2015年、東証1部(現：プライム市場)に上場以降、事業の拡大とガバナンスの強化に取り組んでまいりました。今後も多くの投資者の皆さまのご期待に応えられるよう、より一層の企業価値の向上に努めてまいります。

JPX-NIKKEI 400
こちらからも→アクセスできます
「JPX日経インデックス400」の詳細は、下記URLをご参照ください。
https://www.jpx.co.jp/markets/indices/jpx-nikkei400/index.html

FUSO 扶桑化学工業株式会社

https://fusokk.co.jp